

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

— 平成 1 2 年 5 月 調査結果 —

(平成 1 2 年 6 月 1 日)

○調査期間：平成 1 2 年 5 月 1 9 日～2 5 日

○調査対象：全国の 3 9 6 商工会議所が 2 6 6 5 業種組合等にヒアリング
(内訳) 建設業 3 9 3 製造業 6 4 8 卸売業 2 4 5
小売業 7 6 6 サービス業 6 1 3

○調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 (D I 値を集計)
及び、業界として当面する問題等

※ D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算：(好転) - (悪化) 売上：(増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 4 4 ・ 7 8 3 6
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は、日商ホームページ (<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

【平成12年5月調査結果のポイント】

厳しさの中に一部回復の兆しも見られるものの足取りは極めて鈍い

- 5月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、製造業、卸売業、サービス業で前月水準に比べてマイナス幅が若干拡大したものの、小売業でマイナス幅が6.2ポイント縮小したこと等により、DI値は前月水準よりマイナス幅が0.3ポイント縮小して▲34.9となった。マイナス水準での推移は平成3年4月から110ヶ月、また平成3年9月から105ヶ月連続してマイナス2桁水準となっている。昨年4月以来DI値の水準は▲40ポイント台で一進一退の動きを続けた後、3月に大幅なマイナス幅の縮小（7.2ポイント）が見られたが、さらに4月、5月と若干の縮小が続いた。業況の好転や先行きへの期待感を指摘する各業種からの声は増加している一方で、業況の厳しさを訴える声も引き続き多く、足元の景気は、引き続き低迷の中に一部回復の兆しも見られるものの、足取りは極めて鈍い。

建設業では、「若干民間が動いてきた」とする声も聞かれるが、「公共工事が予想以上に減少。民間の設備投資もそれほど上向いていない」との声のほか、「民間発注工場の競争が依然厳しく、若干の売上げ増があっても利益率の低下により、利益ベースは悪化している」など採算面の厳しさも多く指摘されている。また、「公共工場の早期発注が望まれる」と新年度公共工事に期待する声がある一方、「地方自治体の公共工事予算が毎年減少し、見通しが暗い」といった先行き不安についての指摘も寄せられている。製造業では、「メーカーからの受注も増え、売上・採算ともに若干ではあるが増加傾向にある」（金属加工機械）、「夏季需要の高水準の生産が続いている」（紙製容器）など生産量増加の声がある一方、「仕事量は増えても加工単価が下落しているので売上げには結びつかない」（金属加工機械）、「受注はあるが、コストダウンは相変わらず厳しい」（自動車付属品）、「仕事量は確保されているが、依然として船価が上がらず、安値受注が続いている」（船舶製造・修理）など、採算面の厳しさについての指摘も寄せられている。卸売業では、「個人消費も盛り上がりや欠き、小売筋も売上低迷のため仕入れが不活発で、相変わらず売上減少が続いている」（繊維品）や「荷動きは昨年並みに推移しているが、単価の回復が見られず、利益としては非常に厳しい。先行き見通しも全く立たない」（農畜産水産物）など厳しい業況を訴える声が多いものの、「夏物衣料は天候に恵まれずまずだった」（衣服・日用品）との声もある。小売業では、昨年実施した地域振興券の反動減や、客数の減少・客単価の下落といった消費低迷の指摘が多く寄せられる一方、「中旬以降、気温の上昇とともに婦人雑貨、婦人服、紳士カジュアル衣料などの売れ行きが良くなった」（百貨店）といった声も寄せられている。サービス業では、「市役所のチャイルドシート推進活動により貸し出しが増加し、採算好転の兆し」（各種物品賃貸）、「携帯電話を中心としたIT関連の需要が活発で、今後しばらく業況の好調が期待できそう」（人材派遣）といった声も寄せられている一方、「他業種の参入による業者間競争激化などから単価が弱含み傾向となり、売上・収益ともに厳しい業況を余儀なくされている」（ソフトウェア）、「大型飲食店の安売り競争が目立つ。その中で、一般の飲食店が厳しい」（飲食店）など、競争激化による業況への影響についての声も寄せられている。

売上面では、サービス業を除く4業種で前月水準に比べてマイナス幅が縮小したことにより、全業種合計の売上DIはマイナス幅が1.1ポイント縮小して▲32.8となった。採算面では、建設業を除く4業種で前月水準に比べてマイナス幅が縮小したことから、全業種合計の採算DIはマイナス幅が1.6ポイント縮小して▲35.5となった。

- 向こう3ヶ月(6月～8月)の先行き見通しは、全産業合計の業況D I (今月比ベース)が▲27.2と、現状より好転するとの見方となっている。
- 景気に関する声、当面する問題としては、新年度公共工事の早期発注、個人消費、原材料・仕入単価の動向についての関心が高い。

【業況についての判断】

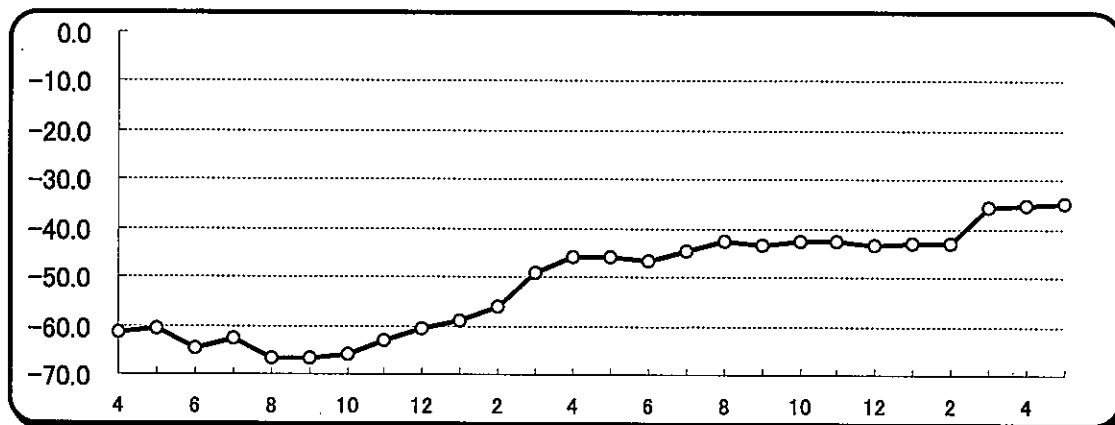
- 全産業合計の業況D I (前年同月比ベース、以下同じ)は、前月水準よりマイナス幅が0.3ポイント縮小して▲34.9となった。マイナス水準での推移は平成3年4月から110ヶ月、また平成3年9月から105ヶ月連続してマイナス2桁水準となっている。昨年4月以来D I値の水準は▲40ポイント台で一進一退の動きを続けた後、3月に大幅なマイナス幅の縮小(7.2ポイント)が見られたが、さらに4月、5月と若干の縮小が続いた。
- 向こう3ヶ月(6月～8月)の先行き見通しは、全産業合計の業況D I (今月比ベース)が▲27.2と、現状より好転するとの見方となっている。

業況D I (前年同月比)の推移

	11年 12月	12年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全産業	▲43.4	▲43.1	▲42.8	▲35.6	▲35.2	▲34.9	▲27.2 (▲34.0)
建設	▲43.1	▲43.9	▲42.9	▲38.7	▲45.7	▲44.5	▲34.4 (▲32.3)
製造	▲34.6	▲33.2	▲32.1	▲26.6	▲24.2	▲26.2	▲22.0 (▲31.8)
卸売	▲39.8	▲36.5	▲45.0	▲40.0	▲36.7	▲40.4	▲29.8 (▲28.0)
小売	▲53.7	▲52.2	▲51.6	▲41.4	▲45.5	▲39.3	▲30.6 (▲39.9)
サービス	▲41.8	▲44.7	▲42.9	▲34.4	▲27.0	▲29.8	▲22.5 (▲32.3)

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3ヶ月の先行き見通しD I
()内は昨年5月の先行き見通しD I <以下同じ>

≪業況D I (全産業・前年同月比)の推移≫



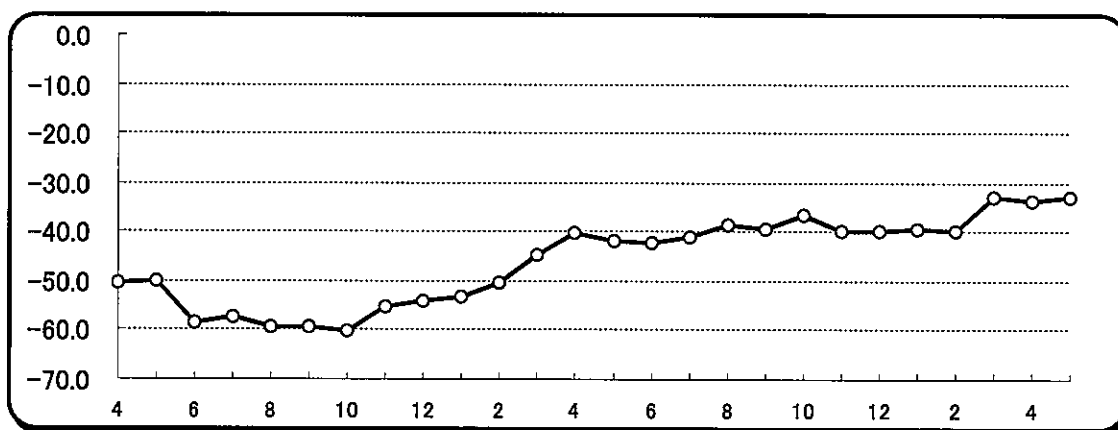
【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

- 売上面では、サービス業を除く4業種で前月水準に比べてマイナス幅が縮小したことにより、全業種合計の売上DIはマイナス幅が1.1ポイント縮小して▲32.8となった。
- 向こう3ヶ月(6月～8月)の先行き見通しは、全業種合計の売上DI（今月比ベース）が▲21.9と、現状より好転するとの見方となっている。

売上（受注・出荷）DI（前年同月比）の推移

	11年						先行き見通し 6～8月
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	
全産業	▲40.0	▲39.4	▲39.9	▲32.9	▲33.9	▲32.8	▲21.9 (▲26.6)
建設	▲38.5	▲36.0	▲34.6	▲30.5	▲38.4	▲38.2	▲21.3 (▲21.3)
製造	▲29.5	▲31.5	▲30.8	▲24.4	▲20.5	▲18.4	▲13.1 (▲26.2)
卸売	▲34.9	▲37.1	▲45.9	▲36.5	▲41.0	▲40.4	▲21.3 (▲17.6)
小売	▲52.6	▲47.7	▲46.9	▲41.7	▲47.5	▲44.1	▲32.2 (▲33.3)
サービス	▲38.8	▲40.6	▲42.4	▲31.4	▲25.7	▲27.7	▲19.3 (▲25.8)

《売上（受注・出荷）DI（全産業・前年同月比）の推移》



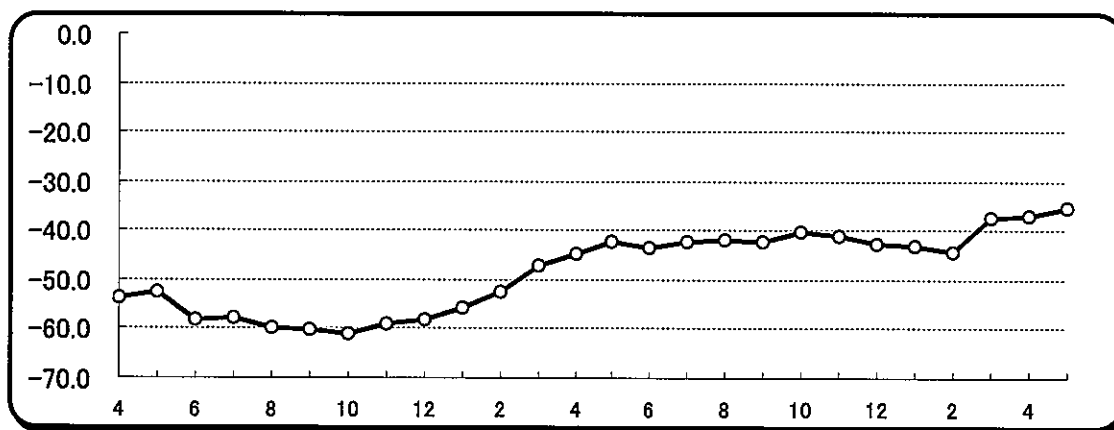
【採算の状況についての判断】

- 採算面では、建設業を除く4業種で前月水準に比べてマイナス幅が縮小したことから、全業種合計の採算D Iはマイナス幅が1.6ポイント縮小して▲35.5となった。
- 向こう3ヶ月(6月～8月)の先行き見通しは、全産業合計の業況D I(今月ベース)が▲27.4と、現状より好転するとの見方となっている。

採算D I (前年同月比) の推移

	11年 12月	12年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全産業	▲ 42.8	▲ 43.0	▲ 44.4	▲ 37.4	▲ 37.1	▲ 35.5	▲ 27.4 (▲ 31.5)
建設	▲ 42.9	▲ 47.0	▲ 47.3	▲ 43.9	▲ 46.6	▲ 48.2	▲ 37.1 (▲ 32.0)
製造	▲ 36.6	▲ 35.8	▲ 40.3	▲ 32.6	▲ 28.6	▲ 28.5	▲ 22.6 (▲ 32.5)
卸売	▲ 42.4	▲ 39.5	▲ 40.6	▲ 41.4	▲ 41.7	▲ 39.0	▲ 26.6 (▲ 24.6)
小売	▲ 50.3	▲ 48.6	▲ 48.4	▲ 38.9	▲ 42.6	▲ 36.9	▲ 30.5 (▲ 34.3)
サービス	▲ 40.0	▲ 42.5	▲ 43.6	▲ 34.7	▲ 31.5	▲ 31.3	▲ 22.7 (▲ 29.2)

≪採算D I (全産業・前年同月比) の推移≫



(参考)

仕入単価D I (前年同月比) の推移

	11年 12月	12年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6~8月
全産業	▲ 1.1	0.9	▲ 1.1	▲ 2.0	▲ 0.9	▲ 0.8	▲ 2.0 (▲ 2.6)
建設	1.8	▲ 1.0	0.4	▲ 2.5	1.7	1.3	0.3 (▲ 1.8)
製造	▲ 4.9	▲ 5.2	▲ 7.7	▲ 8.3	▲ 7.6	▲ 7.4	▲ 7.6 (▲ 6.4)
卸売	1.2	16.3	8.7	12.4	7.9	9.6	3.4 (3.4)
小売	4.7	5.1	2.1	2.0	4.0	3.9	1.5 (1.1)
サービス	▲ 7.1	▲ 2.8	▲ 2.7	▲ 5.8	▲ 4.7	▲ 5.2	▲ 4.2 (▲ 6.4)

$$D I = (\text{下落の回答割合}) - (\text{上昇の回答割合})$$

【前年同月比D I】建設業、小売業、サービス業で上昇超感強まる。

【先行き見通しD I】サービス業以外の全業種で上昇超感強まる見通し。

従業員D I (前年同月比) の推移

	11年 12月	12年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6~8月
全産業	▲ 15.1	▲ 14.6	▲ 16.0	▲ 13.2	▲ 14.8	▲ 13.4	▲ 11.1 (▲ 13.4)
建設	▲ 25.8	▲ 22.2	▲ 24.6	▲ 20.9	▲ 27.2	▲ 25.3	▲ 19.5 (▲ 22.8)
製造	▲ 19.6	▲ 16.9	▲ 19.5	▲ 14.2	▲ 15.6	▲ 13.0	▲ 13.2 (▲ 19.5)
卸売	▲ 9.6	▲ 13.5	▲ 14.5	▲ 17.6	▲ 20.9	▲ 16.3	▲ 11.3 (▲ 9.5)
小売	▲ 10.5	▲ 12.6	▲ 12.6	▲ 10.4	▲ 12.3	▲ 9.2	▲ 8.9 (▲ 9.0)
サービス	▲ 10.8	▲ 9.6	▲ 10.9	▲ 8.2	▲ 6.4	▲ 9.3	▲ 6.3 (▲ 9.0)

$$D I = (\text{不足の回答割合}) - (\text{過剰の回答割合})$$

【前年同月比D I】サービス業以外の全業種で過剰超感弱まる。

【先行き見通しD I】製造業以外の全業種で過剰超感弱まる見通し。

【平成12年5月の景気キーワード】

○ 先行き期待

業況の低迷や先行きの不透明感を訴える声は引き続き多いが、業況の底打ち感や先行きへの期待の声も寄せられている。建設業では、公共工事予算の抑制化傾向への不安が示される一方で、「公共事業発注の端境期がまもなく終わるので、工事発注に期待している。特に建築工事への期待が大きい」（小浜）、「若干民間が動いてきた。工場の設備投資の計画が始まったようだ」（古河）との声があり、公共工事や企業の設備投資に対する期待も多く寄せられている。製造業では、受注単価の低下や原材料の高騰等による採算面での懸念が示される一方、「メーカーからの受注も増え、売上・採算ともに若干では有るが増加傾向にある」（館山・金属加工機械）、「工作機械が上昇傾向」（西尾・鉄素形材）、「業界はまだ底ばいながら、今年に入って生産が前年比増に転じ、受注面ではかなり好転している。このまま上昇に転じることを期待している」（大阪・繊維機械）など生産量増加の声が寄せられている。また、卸売業では、「厳しい業況を訴える声が多いものの、昨年と比較すると、売上高、採算面ともに伸びているとの声もある」（一宮・繊維品）との声が、小売業では、「中旬以降、気温の上昇とともに婦人雑貨、婦人服、紳士カジュアル衣料などの売れ行きが良くなった」（堺・百貨店）、「衣料量販店が百貨店に出店してから土日は開店前から行列ができるようになり、このまま活気ある商店街に変わってほしい。今年度中には同じ百貨店内に博物館等が完成する予定で、商店街の活性化につながるよう期待したい」（横浜・商店街）といった声が寄せられている。サービス業では、「携帯電話を中心としたIT関連の需要が活発で、今後しばらく業況の好調が期待できそう」（長野・人材派遣）、「6月は団体旅行の時期なので期待している」（赤穂・旅館）などの声が寄せられている。

○ 採算面の厳しさ

建設業・製造業からは受注単価の引き下げ、卸売業・小売業・サービス業からは客単価の減少等による採算面での厳しさを指摘する声が多く寄せられている。

建設業からは、「仕事は上向いてきた。しかし、大手ゼネコンの受注単価の値引き要請が強く、採算面では厳しい」（川崎）との声が、また製造業からは、「仕事量は増えても加工単価が下落しているので売上増には結びつかない」（清水・金属加工機械）などの声が寄せられている。さらに、卸売業・小売業・サービス業からは、「荷動き昨年並みに推移しているが、単価の回復が見られず、利益としては非常に厳しい」（倉敷・農畜産水産卸）、「仕入価格が変わらない割には、小売価格が競争により下落の傾向にある」（大津・商店街）、「他業種の参入で業者間競争の激化などから単価は弱含み傾向のため、売上収益とともに厳しい業況を余儀なくされている」（豊橋・自動車整備）などの声が寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード	
12年 3月	先行き期待	採算面の厳しさ
4月	先行き期待	競争激化
5月	先行き期待	採算面の厳しさ

※景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

(参考)

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	採算DⅠは前月水準に比べてマイナス幅が拡大したものの、業況・売上DⅠはマイナス幅が縮小している。「若干民間が動いてきた」とする声も聞かれるが、「公共工事が予想以上に減少。民間の設備投資もそれほど上向いていない」との声のほか、「民間発注工事の競争が依然厳しく、若干の売上増があっても利益率の低下により、利益ベースは悪化している」など採算面の厳しさも多く指摘されている。また、「公共工事の早期発注が望まれる」と新年度公共工事に期待する声がある一方、「地方自治体の公共工事予算が毎年減少し、見通しが暗い」といった先行き不安についての指摘も多く寄せられている。
製 造	業況DⅠは前月水準に比べてマイナス幅が拡大したものの、売上・採算DⅠはマイナス幅が縮小している。「メーカーからの受注も増え、売上・採算ともに若干ではあるが増加傾向にある」（金属加工機械）、「夏季需要の高水準の生産が続いている」（紙製容器）など生産量増加の声がある一方、「仕事量は増えても加工単価が下落しているので売上増には結びつかない」（金属加工機械）、「受注はあるが、コストダウンは相変わらず厳しい」（自動車付属品）、「仕事量は確保されているが、依然として船価が上がらず、安値受注が続いている」（船舶製造・修理）など、採算面の厳しさについての指摘も寄せられている。
卸 売	業況DⅠは前月水準に比べてマイナス幅が拡大したものの、売上・採算DⅠはマイナス幅が縮小している。「個人消費も盛り上がりを欠き、小売筋も売上低迷のため仕入れが不活発で、相変わらず売上減少が続いている」（繊維品）や「荷動きは昨年並みに推移しているが、単価の回復が見られず、利益としては非常に厳しい。先行き見通しも全く立たない」（農畜産水産物）など厳しい業況を訴える声が多いものの、「夏物衣料は天候に恵まれずまずまずだった」（衣服・日用品）との声もある。
小 売	業況・売上・採算DⅠとも前月のマイナス幅拡大から反転し、いずれも前月水準に比べてマイナス幅が縮小している。昨年実施した地域振興券の反動減や、客数の減少・客単価の下落といった消費低迷の指摘が多く寄せられる一方、「中旬以降、気温の上昇とともに婦人雑貨、婦人服、紳士カジュアル衣料などの売れ行きが良くなった」（百貨店）といった声も寄せられている。
サービス	業況・売上DⅠとも前月水準に比べてマイナス幅が拡大したものの、採算DⅠはマイナス幅が縮小している。「市役所のチャイルドシート推進活動により貸し出しが増加し、採算好転の兆し」（各種物品賃貸）、「携帯電話を中心としたIT関連の需要が活発で、今後しばらく業況の好調が期待できそう」（人材派遣）といった声が寄せられている一方、「他業種の参入による業者間競争激化などから単価が弱含み傾向となり、売上・収益ともに厳しい業況を余儀なくされている」（ソフトウェア）、「大型飲食店の安売り競争が目立つ。その中で、一般の飲食店が厳しい」（飲食店）などの指摘が寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

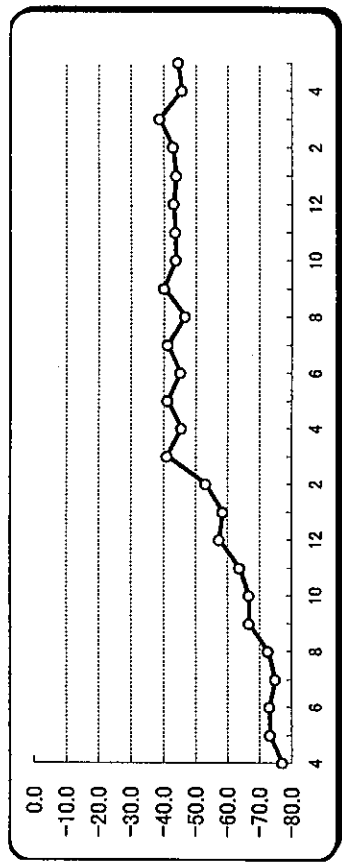
- ブロック別の業況DI（前年同月比ベース）をみると、全産業合計では、全ブロックとも引き続きマイナス水準での推移となっている。ブロック別では、北海道・北陸信越・関東・中国・九州で前月水準に比べてマイナス幅が拡大し、他のブロックで縮小した。
- ブロック別の向こう3ヶ月（6月～8月）の業況の先行き見通しは、全産業合計では、引き続きマイナス水準。四国以外の全ブロックで現状より上向くとの見方になっている。

ブロック別・全産業業況DI（前年同月比）の推移

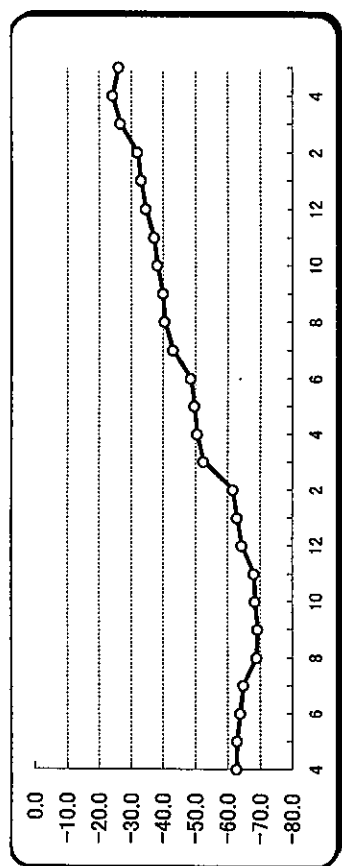
	11年 12月	12年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全 国	▲ 43.4	▲ 43.1	▲ 42.8	▲ 35.6	▲ 35.2	▲ 34.9	▲ 27.2 (▲ 34.0)
北海道	▲ 23.6	▲ 41.0	▲ 28.2	▲ 27.5	▲ 36.8	▲ 41.4	▲ 30.1 (▲ 19.3)
東 北	▲ 44.3	▲ 38.0	▲ 35.2	▲ 24.2	▲ 35.5	▲ 33.3	▲ 29.7 (▲ 36.2)
北陸信越	▲ 32.4	▲ 42.7	▲ 35.6	▲ 31.7	▲ 29.9	▲ 31.0	▲ 17.1 (▲ 24.7)
関 東	▲ 47.2	▲ 41.3	▲ 43.2	▲ 37.6	▲ 33.4	▲ 33.7	▲ 24.2 (▲ 35.0)
東 海	▲ 54.5	▲ 48.0	▲ 44.2	▲ 43.3	▲ 36.8	▲ 36.3	▲ 26.3 (▲ 36.2)
近 畿	▲ 51.6	▲ 50.8	▲ 55.4	▲ 42.3	▲ 48.9	▲ 39.7	▲ 32.1 (▲ 39.6)
中 国	▲ 43.0	▲ 48.3	▲ 46.7	▲ 39.8	▲ 33.6	▲ 33.9	▲ 30.5 (▲ 37.9)
四 国	▲ 48.7	▲ 44.1	▲ 60.0	▲ 44.4	▲ 42.1	▲ 40.7	▲ 43.2 (▲ 38.1)
九 州	▲ 35.7	▲ 34.7	▲ 33.7	▲ 24.8	▲ 21.8	▲ 28.4	▲ 22.0 (▲ 32.5)

業況DI (前年同月比) の推移 (全国)

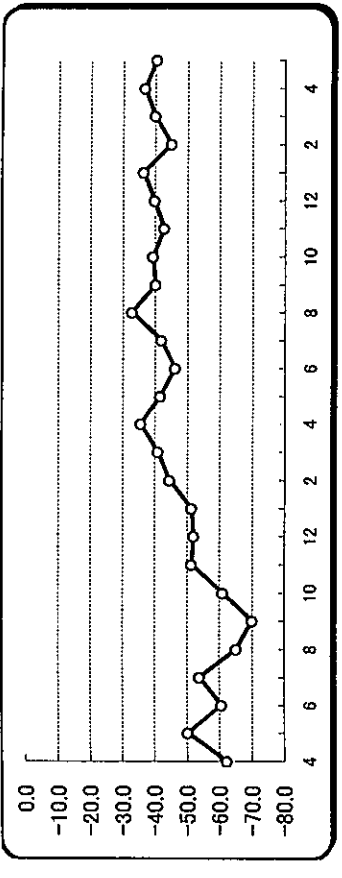
建設業



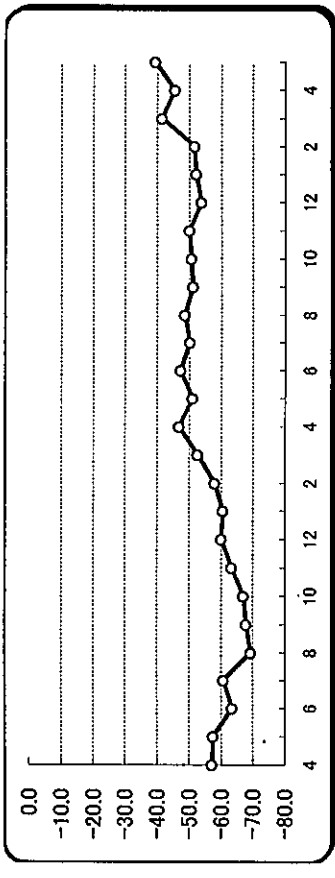
製造業



卸売業



小売業



サービス業

